官民連携による文化芸術活動支援体制

資料2−3

	相談	交流促進	情報発信	助成	企業連携	体制
R6	アートの窓口しが設置 ※活動者等への相談支援	地域での文化芸術活動者向けの交流会	ポータルサイト （SHiGAArt・美の魅力）	地域資源活用交流創出事業（公募型助成）		
R7						
R8	新 **企業とのマッチング促進**	コーディネーターの**県内ヒアリング**等により、地域コーディネーター人材を発掘する。	**・ポータルサイトや県HPの整理・充実** 新 **・企業等へ文化情報提供（プッシュ型）による情報発信の拡大**		**企業向けアンケート・ヒアリング調査の実施やフォーラムの開催**によって、支援への理解を深め、県内企業の機運醸成を図る。	地域で実務的に活動するキーパーソンによる**運営委員会の設置**により、企業等との連携促進や人材育成の企画を行う。
R9		地域のコーディネーター人材の発掘・育成		助成事業の充実 ※団体のネットワーク化支援をメニュー化	企業による支援拡大	運営委員会による官民連携支援体制実現に向けた検討・事業企画
R10						
R11						
R12	将来の目指す姿（滋賀県文化振興基本方針（第4次）R8～12） **官民連携による文化芸術活動を支援する体制** ※行政や企業等の支援を受けながら、 活動団体がネットワーク化し自律的に運営 ・地域のコーディネーターによる文化芸術活動者と支援者（活動地域で文化芸術を支える仕組みの確立資金・活動場所・人材　等）のマッチング ・公募型助成事業を通じた伴走型支援					

企業協賛
受け入れにより充実







企業ヒアリングから見えた現状と課題

【現状】

- 教育・福祉・環境・スポーツ支援が多い
- 文化芸術との接点が少ない企業が大半
- 本業や社員への収益還元を優先
- 地域とのつながりを重視する企業が多数

【課題】

- 何を支援すればよいか分からない
- 支援の理由・効果を説明しづらい。
- 支援するかどうかの線引きが難しい。
- 人的・予算的制約
- 継続できる仕組みの不足

ヒアリング訪問数 （8月末時点）	13社
訪問先業種内訳	製造業7、インフラ1、建設2、情報通信1、宿泊業1、施設管理1
うち、文化芸術支援実績有	5社
支援内容	美術館サポーター、アール・ブリュット展示、びわ湖ホール特別会員等

文化芸術活動を支援する仕組みづくり(案)

課題

- 文化芸術に触れる(発表する)機会が少ない
- 人・地域・企業とのつながりが少ない
- 文化芸術の距離が遠い、根付いていない
- 活動者の高齢化、人材育成
- 活動資金の確保

※令和6年度文化芸術関係者を対象とした実態把握調査参照

文化芸術活動と応援者・資源をつなげることが必要

※応援者…地域、企業、団体など
資源…相談窓口、活動場所、補助金制度、寄附制度、情報発信など

地域拠点型の支援体制



①文化芸術活動と応援者・資源がつながるプラットフォームの構築

②地域コーディネーター配置による企業連携・マッチング

**文化芸術活動の自立的・持続的な発展、
文化芸術に触れられる場の継続的な提供**

①文化芸術活動と応援者・資源がつながるプラットフォームの構築

- 滋賀県の文化芸術活動者と応援者・資源がつながるプラットフォームを設置

→「SHiGA Art」(県運営)と「BiWACCホームページ」(びわ湖芸術文化財団運営)の役割把握・整理

＜プラットフォームの役割(案)＞

〇文化芸術活動(人・場所・コト)の情報発信
〇相談窓口、地域コーディネーターの周知
〇補助金、支援情報の周知
〇参加者が関わる仕組み(参加者によるSNS発信等)
〇活動者のクラウドファンディング
〇企業、団体からの求人
〇文化芸術活動者・企業を紹介→マッチングにつなげる。

②地域コーディネーターの配置

- 県内をいくつかの地域に分け、各地域にコーディネーターを配置（各地域に1名、または北部に2人・南部に2人　等）
- 雇用形態は会計年度任用職員、業務委託等を検討

地域コーディネーターの役割

情報収集・発信	• 地域内の（文化芸術活動に関心のある）市町、自治会、学校、施設、企業、団体等の状況を把握 • 地域の文化芸術活動者の人となりや活動内容、悩み、展望などを把握 • 地域の文化活動（ヒト・場所・コト）をプラットフォームの地図上にピン止めし、情報を発信
相談対応	• 地域の文化芸術活動者、企業、団体からの相談受付、助言対応
マッチング	• 文化芸術活動を支援したい企業等の発掘 • 文化芸術活動者と応援者・資源等のマッチング • 必要に応じて、他の地域コーディネーターと連携し、地域をまたいだマッチングも行う

スケジュール(案)

	体制検討の場	プラットフォーム（ホームページ）	相談窓口・コーディネーター	企業連携	交流会
R6			・「アートの窓口しが」設置		
R7			・「アートの窓口しが」		
R8	・有識者意見交換会		・「アートの窓口しが」 ・コーディネーター設置に向けた情報収集	・企業に対するアンケート ・企業ヒアリング	・対象：県内企業 ・テーマ：機運醸成
R9	・有識者意見交換会		・R10コーディネーター検討（人選、予算等）	・交流会の案内	・対象：県内企業 ・テーマ：地域貢献の手段
R10	・コーディネーター会議	・プラットフォーム試運用 ・コーディネーターが収集した情報を随時掲載 ・改良を検討	・コーディネーター試験導入 ・R11以降の体制検討	・R11に連携する企業・アーティスト検討 ・交流会の案内	・対象：県内企業 ・テーマ：コーディネーター試験導入の状況
R11	・コーディネーター会議	・プラットフォーム改良	・【継続】コーディネーター	・マッチングの試験実施	・対象：県内企業、アーティスト等 ・テーマ：マッチングの事例紹介
R12	・コーディネーター会議	・プラットフォーム本格運用	・コーディネーター本運用	・マッチング本運用	・対象：県内企業、アーティスト ・テーマ：県内の事例紹介、さらなる機運醸成

令和8年9月2日（水）第1回有識者意見交換会

【令和8年度構成員】
県内の学識経験者、企業、文化関係団体等計6名

＜主な意見＞

- どこまでを文化芸術と捉えるのか。
- 民間との連携以前に、県庁内の所属、県と市町、市町と市町も連携が不十分
- 繋がりたい人同士をつなぐことができたら良い。
- お金と人が揃えば実現する案件もある。動き出すときに伴走してくれる存在がいると良い。
- コーディネーターを置く場合、人材難の中でどのように人材発掘していくのか。
- 文化芸術で生計を立てる人を増やしたいのか、兼業する人を支えるのか。
- 企業連携のコーディネーターに適した人材はまた別なのでは。
- 文化芸術活動者側も企業のことを知らないのでは。双方向の思惑が一致しないと持続しない。

＜今後のスケジュール＞

- 12月16日（水）　第2回有識者意見交換会
- 2月　　交流会の開催